

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語・数学の「知識・技能」において、高い水準を維持しつつ、令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より2ptの向上を目指す。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」、数学の「資料の活用(資料を読み取ること)」において、高い水準を維持しつつ、令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より2ptの向上するできた。
主体的に学習に取り組む態度	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、「当てはまる」と回答した生徒の割合について、高い値を維持しつつ、令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より3ptの向上を目指す。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	国語・数学の「知識・技能」において、高い水準を維持しつつ、令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より1ptの向上を目指す。	⇒ 「ドリルパーク」「スタディサプリ」を活用し、生徒個々に応じた反復・習熟を進める。教科担当者は、生徒の取組状況を確認し、指導に生かす。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」、数学の「資料の活用(資料を読み取ること)」において、高い水準を維持しつつ、令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より1ptの向上を目指す。	⇒ 朝読書の時間の10分間を継続し、時間を確保することで、日頃から書物に親しむ機会を増やす。
主体的に学習に取り組む態度	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、「当てはまる」と回答した生徒の割合について、高い値を維持しつつ、令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より1ptの向上を目指す。	⇒ 「学びの自律化と個別最適化そして探求化」の研究主題のもと、自ら考え、自ら学ぶ学習活動を展開し、主体的に取り組む態度をはぐくむ。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語・数学の「知識・技能」において、高い水準を維持しつつ、令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より1ptの向上を目指すことができた。	A
思考・判断・表現	国語の「読むこと」、数学の「資料の活用(資料を読み取ること)」において、高い水準を維持しつつ、令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より1ptの向上するできた。	A
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、「当てはまる」と回答した生徒の割合について、高い値を維持しつつ、令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より1ptの向上ができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	英語の「書くこと」において、全国の平均正答率を大幅に上回っていた。また言葉の特徴や使い方に関しても上回っていた。普段からの反復学習の成果が出ている。
思考・判断・表現	数学の図形問題において全国の平均正答率を上回っていた。読書の時間を増やしたことにより、読解力や文章を書く力がついた。
主体的に学習に取り組む態度	国語、数学、英語において無回答率が全国の平均を下回っており、自ら問題に取り組む姿勢を見ることができた。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	今年度は、さいたま市の平均値よりも、全教科4~12ptの向上があった。特に数学では、全ての問題においてさいたま市平均よりも3pt以上上がった。時に無回答率の少なさが結果に結び付いたと考える。
中2	今年度は、さいたま市の平均値よりも、全教科5~10ptの向上があった。特に社会では、さいたま市平均を全て3pt以上上回っていた。ただし、理科の生命の領域では、0.2pt低くなっており、今後の課題と考える。
中3	生活のアンケートでは、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は90%以上であった。」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は60%程度であった。来年度の課題は、自ら課題を見つける能力の向上を図る指導を行っていく。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし